

令和2年1月

令和元年	10月 ~	12月期	実績
令和2年	1月 ~	3月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

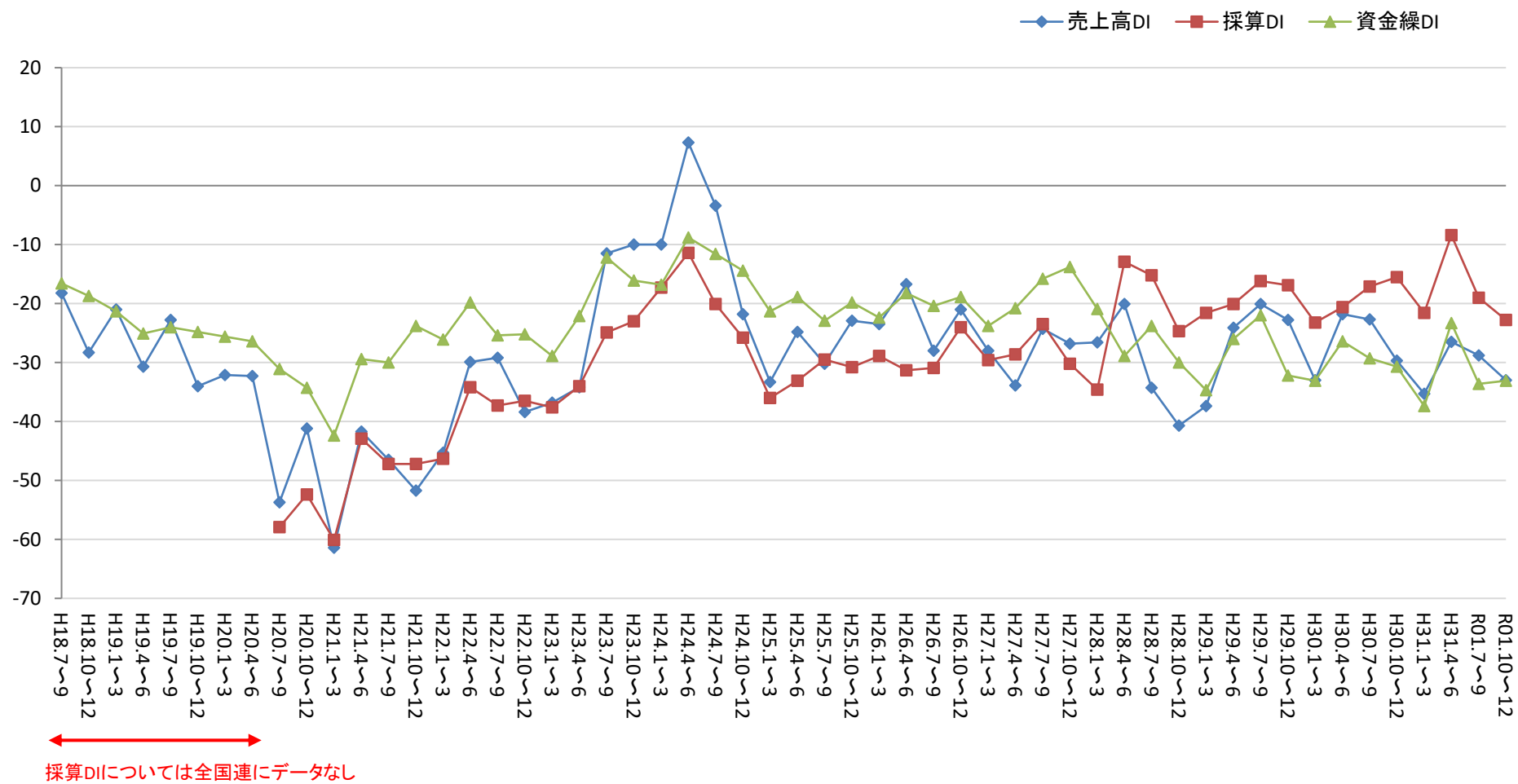
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	平成30年				平成31年		令和元年		(見通し)
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
製 造 業	 曇	 薄曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 雨
建 設 業	 雨	 雨	 曇	 雨	 曇	 薄曇	 雨	 雨	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 雨	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇	 曇

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△10.0	△10.1 ~△30.0	△30.1 ~△100.0
表 示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

全産業の推移

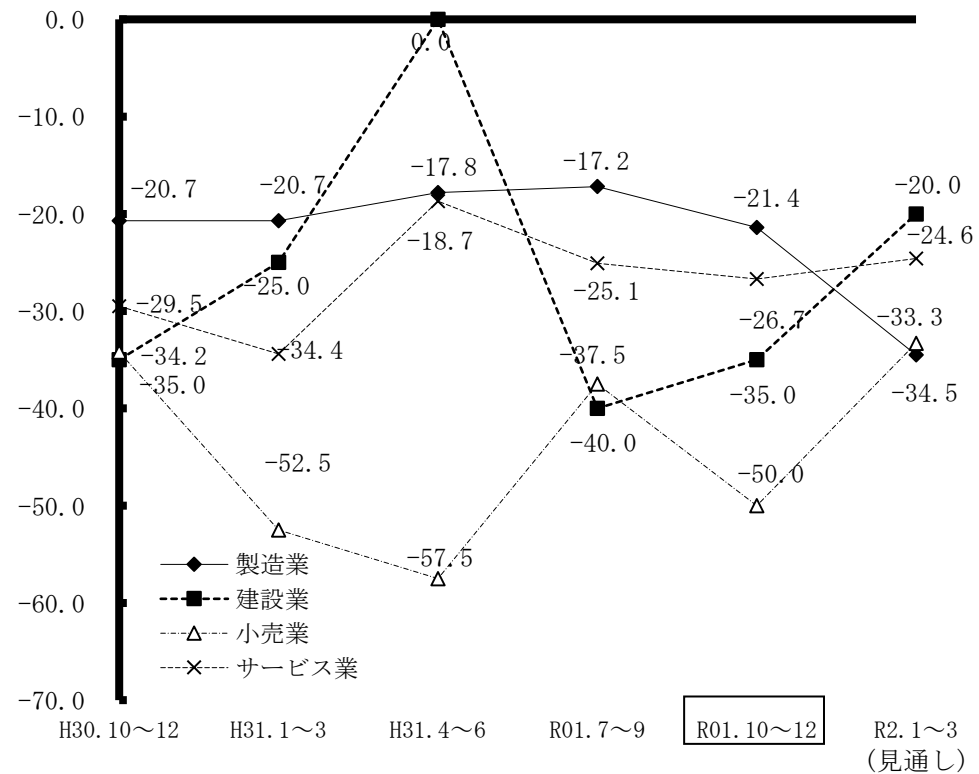
売上高

建設業が上昇 小売業が低下

今期は、前期大幅に上昇した小売業が今期は12.5ポイントの低下となり△50.0まで悪化しました。前期大幅に低下した建設業が上昇に転じ、△35.0まで改善しています。

また、前期小幅ながら上昇した製造業は低下に転じ、4.2ポイント低下の△21.4となっています。サービス業は、2期連続の低下となり1.6ポイント低下して△26.7まで悪化しました。

来期は、建設業と小売業が大幅に上昇するほか、サービス業も上昇すると見込まれていますが、製造業は今期に引き続き低下するものと見込まれています。



※建設業の売上高は完成工事高

全産業の推移

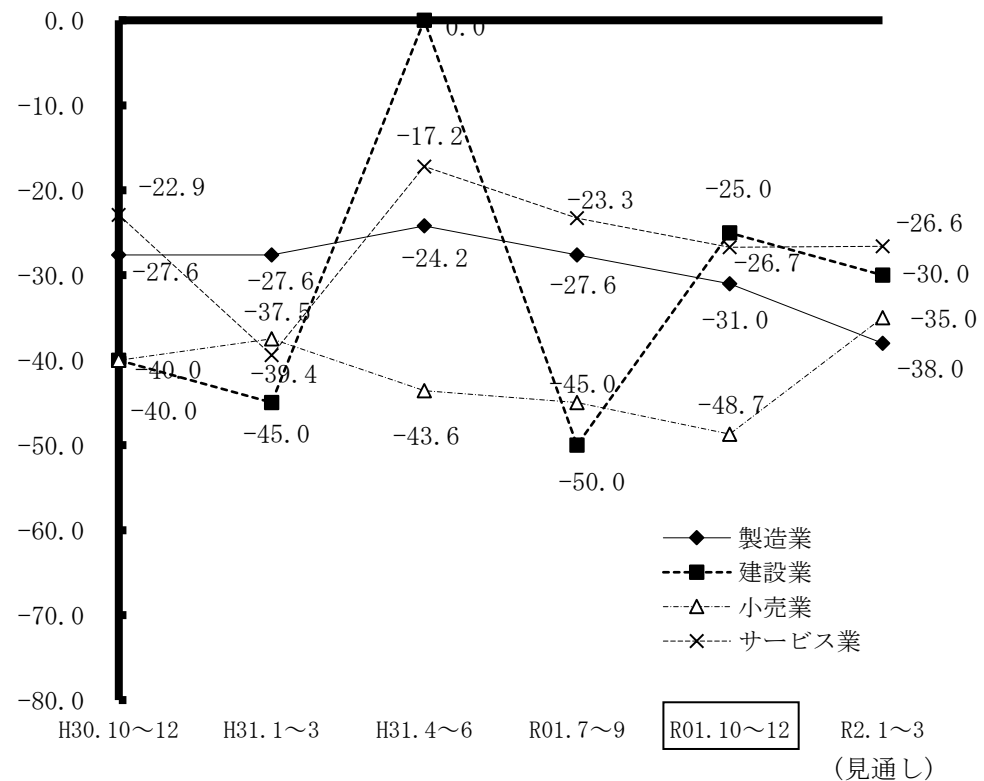
採算

**建設業において採算D・Iが大幅に上昇
製造業、小売業、サービス業が低下**

今期は、建設業が25.0ポイントの大幅な上昇となり△25.0まで改善しました。しかし、サービス業が3.4ポイント低下して△26.7、製造業が3.4ポイント低下して△31.0、小売業も3.7ポイント低下して△48.7となり、今期の採算D・Iは建設業を除く3業種において悪化しました。

来期は、小売業において大幅な改善が見込まれるものの、サービス業が横ばい、製造業、建設業においては悪化するものと予想されています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

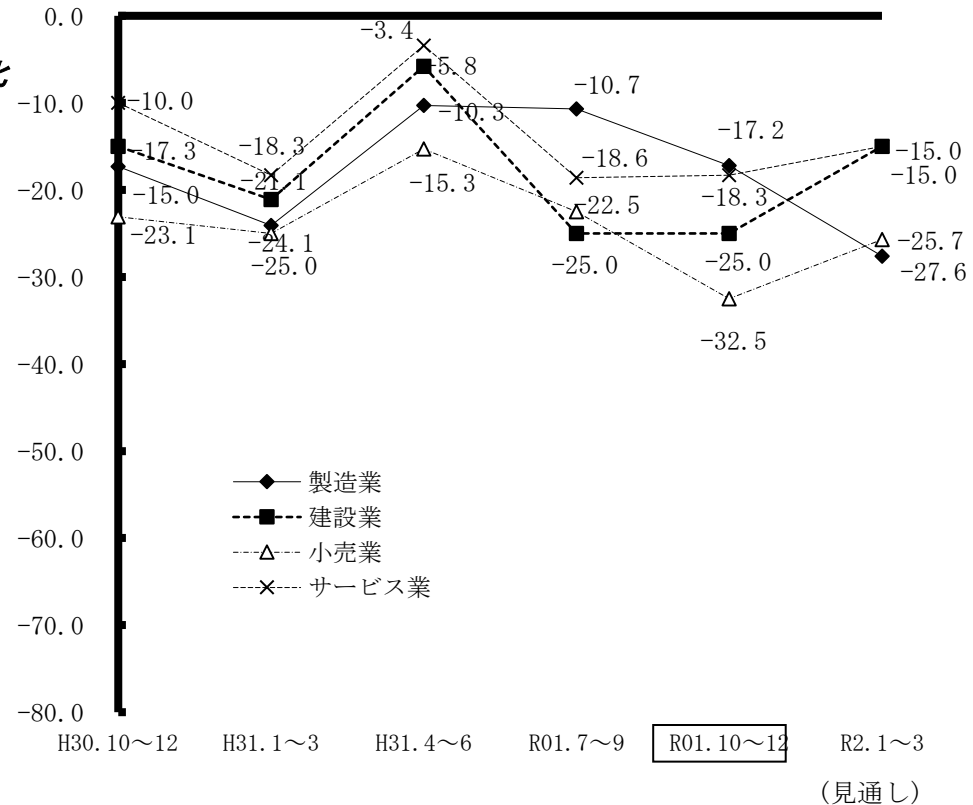
資金繰り

製造業、小売業で資金繰りD-Iが連続して悪化

今期は、製造業が6.5ポイント低下して△17.2、小売業が10.0ポイント低下して△32.5、まで悪化しました。製造業、小売業は2期連続の悪化となりました。

サービス業がほぼ横ばいの△18.3、建設業は横ばいの△25.0となっています。

来期は、製造業は今期に引き続き低下が見込まれますが、建設業、サービス業、小売業においては改善することが予想されています。



売上高

<今 期>



曇

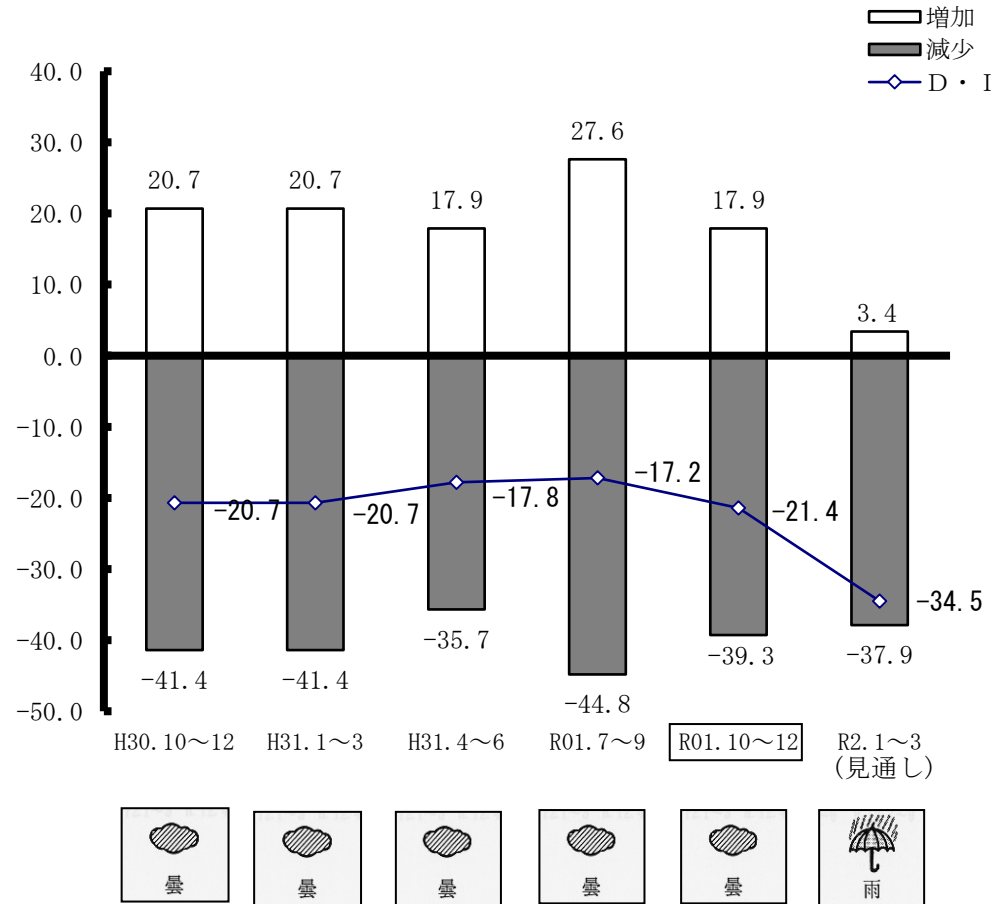
<来期見通し>



雨

今期は、売上高増加企業、売上高減少企業の割合はともに減少しましたが、売上高増加企業の減少幅が大きく、売上高D・Iは4.2ポイントの減少となり、△21.4まで低下しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が大幅に減少する一方、売上高の減少を予想する企業割合の減少が小幅にとどまると見込まれることから、売上高D・Iは今期に引き続き減少することが予想されています。



採算

<今 期>



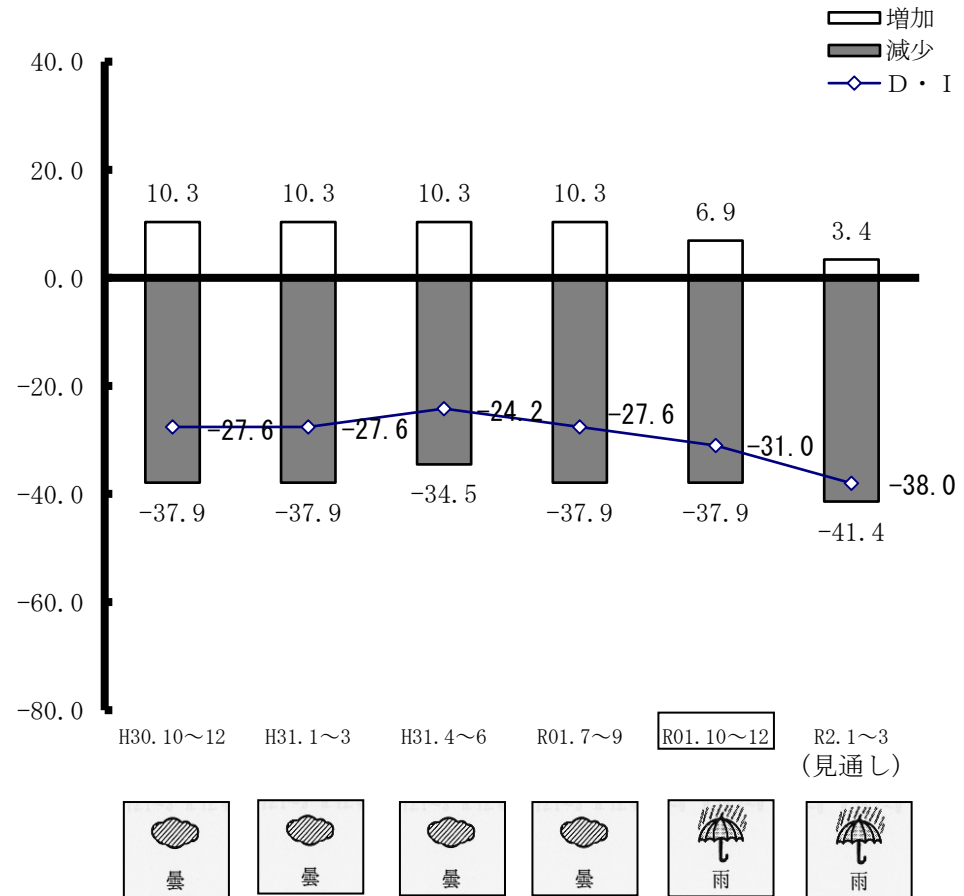
<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が減少し、採算が悪化した企業の割合が横ばいにとどまったため、採算D・Iは3.4ポイント減少し、△31.0まで悪化しました。

景況天気図も曇から雨へと変化しています。

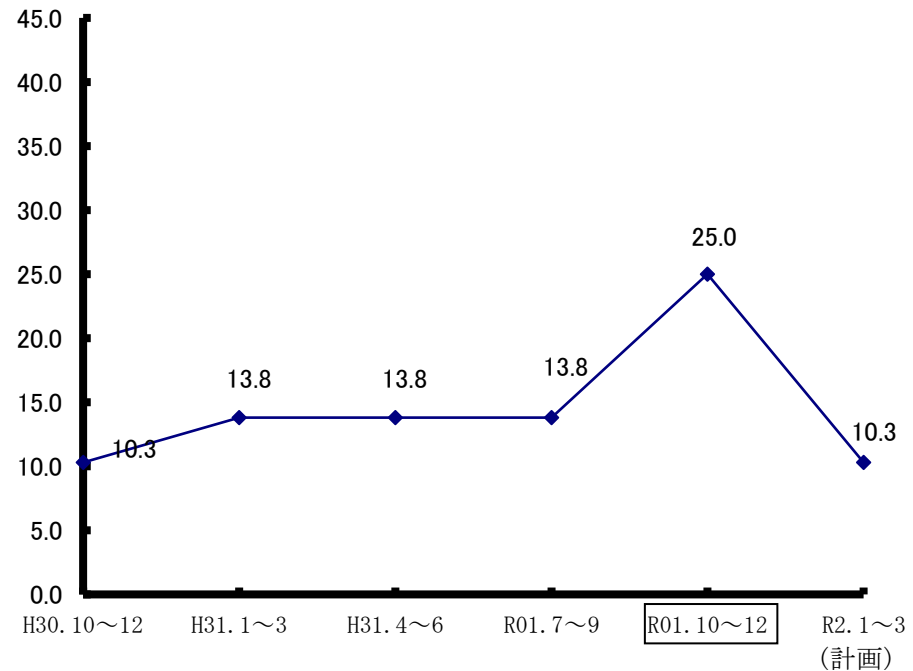
来期は、採算の改善を予想する企業が引き続き減少し、採算の悪化を予想する企業割合が増加すると見込まれることから、採算D・Iは引き続き悪化する見通しです。



設備投資

今期は、設備投資を実施した企業数の割合は11.2ポイント増加し、25.0となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に増減少し、10.3まで低下する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

経営上の問題点

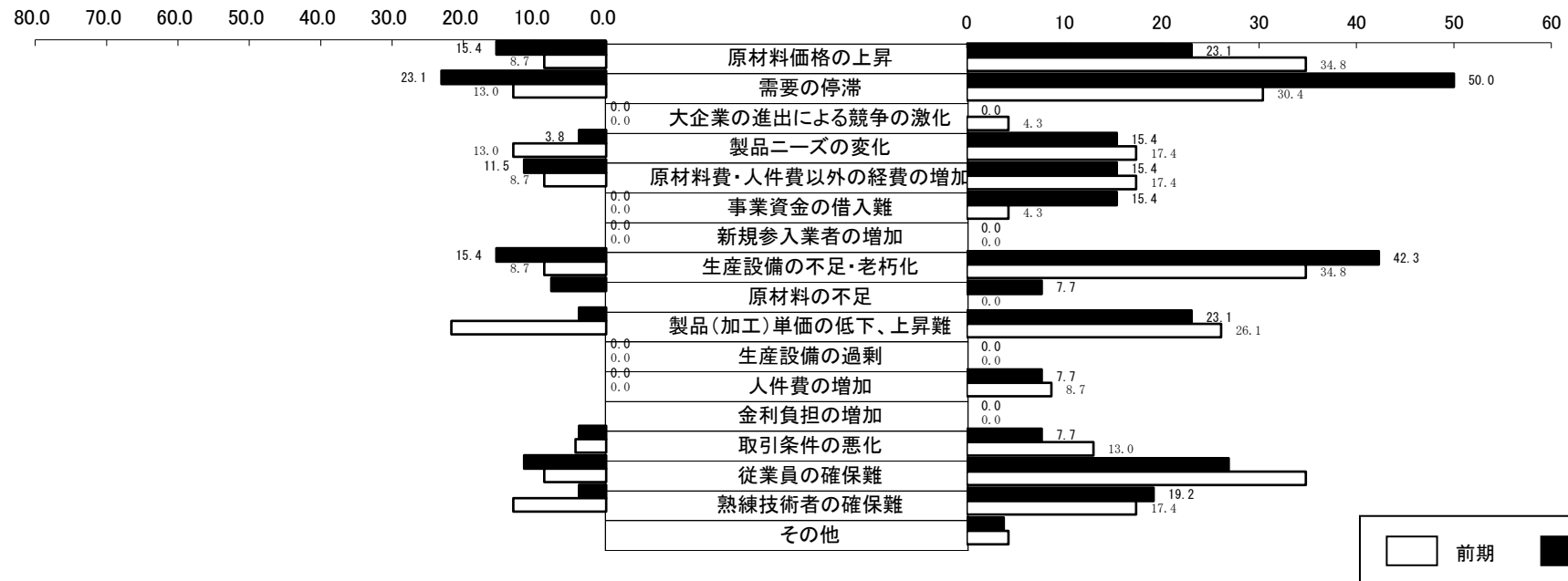
岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛: %)



建設業の推移

売上高

<今 期>



雨

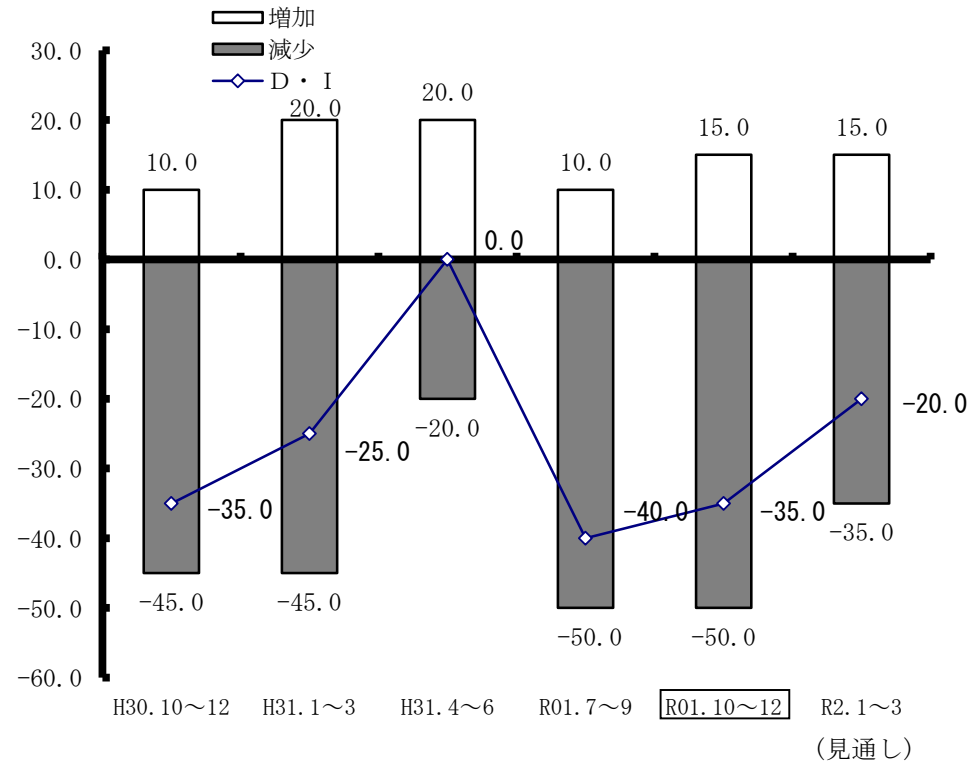
<来期見通し>



曇

今期は、売上高が増加した企業割合は5.0ポイント増加したものの、売上高が減少した企業割合が横ばいにとどまったことにより、売上高 D・I は上昇に転じてマイナス幅を縮小し、△35.0まで改善しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業の割合が大幅に減少すると見込まれるため、売上高D・Iは今期に引き続き上昇することが予想されています。



雨



曇



薄曇



雨



雨



曇

※建設業の売上高は完成工事高

建設業の推移

採算

<今 期>

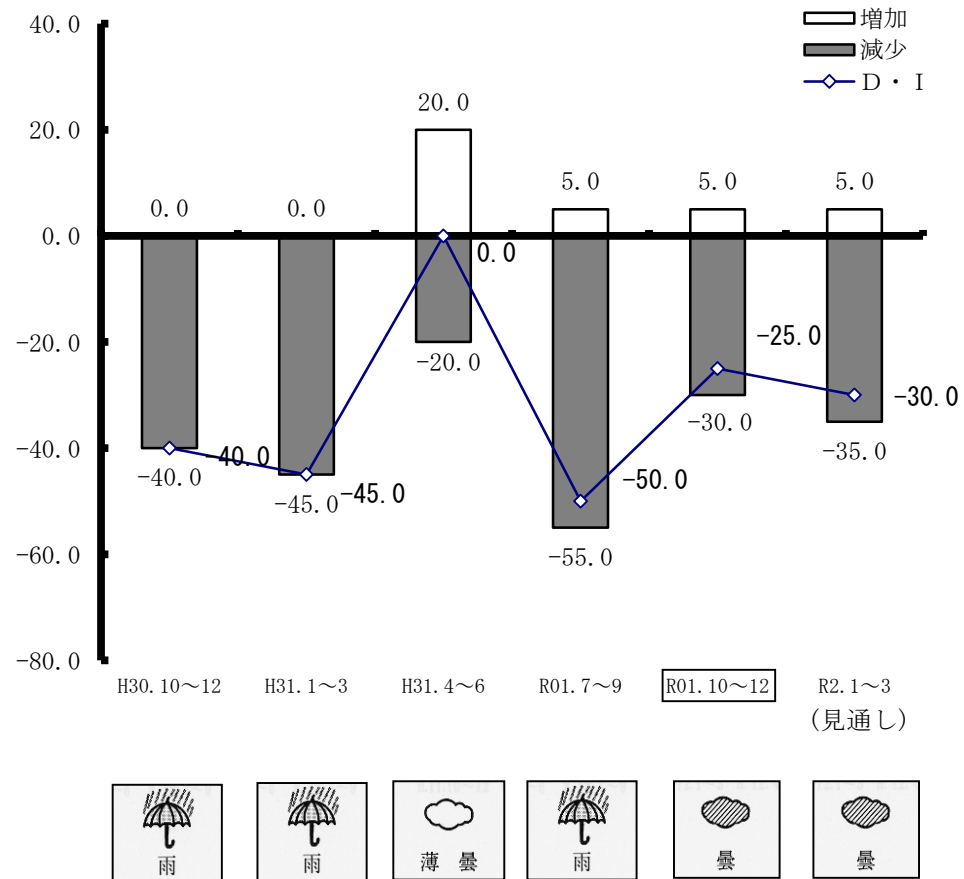


<来期見通し>



今期は、採算好転を挙げた企業の割合は横ばいとどまったものの、採算が悪化した企業の割合が25.0ポイント減少したため、採算D・Iは25.0ポイントの大幅な上昇となり、△25.0まで改善しました。景況天気図も雨から曇へと変化しています。

来期は、採算の好転を予想する企業が横ばいとなるものの、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは悪化に転じる見通しです。



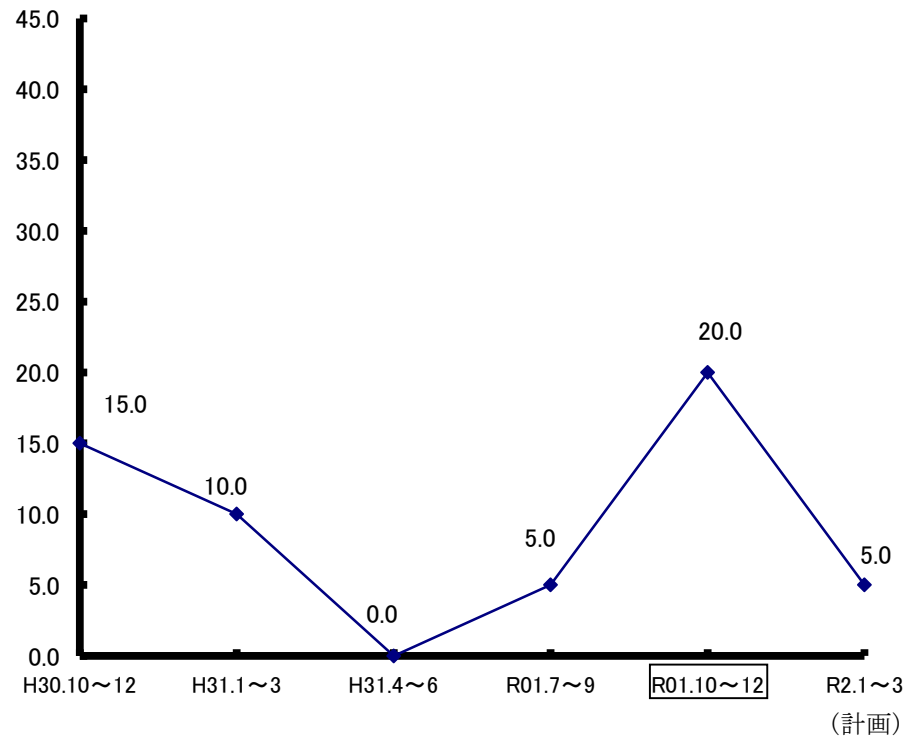
建設業の推移

設備投資

今期、建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期に引き続き増加して20.0となり、直近4期で最も高い水準となっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は減少することが見込まれ、5.0まで低下する見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

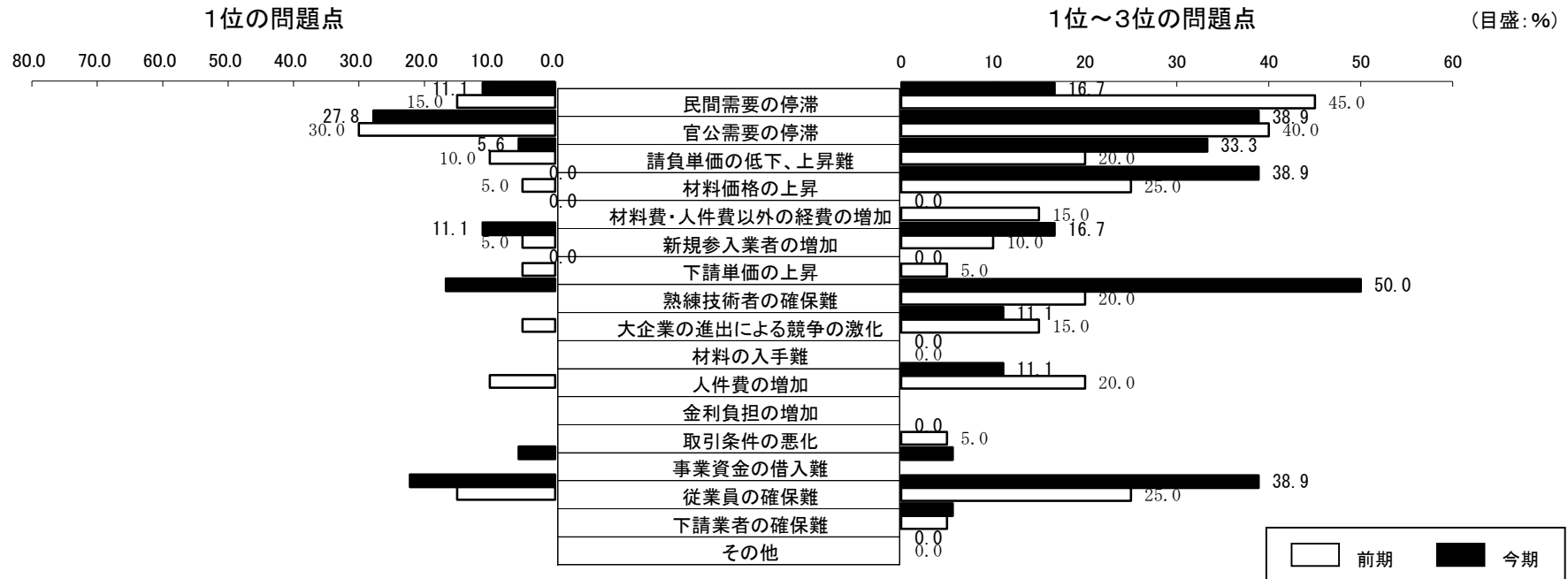


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



小売業の推移

売上高

<今 期>

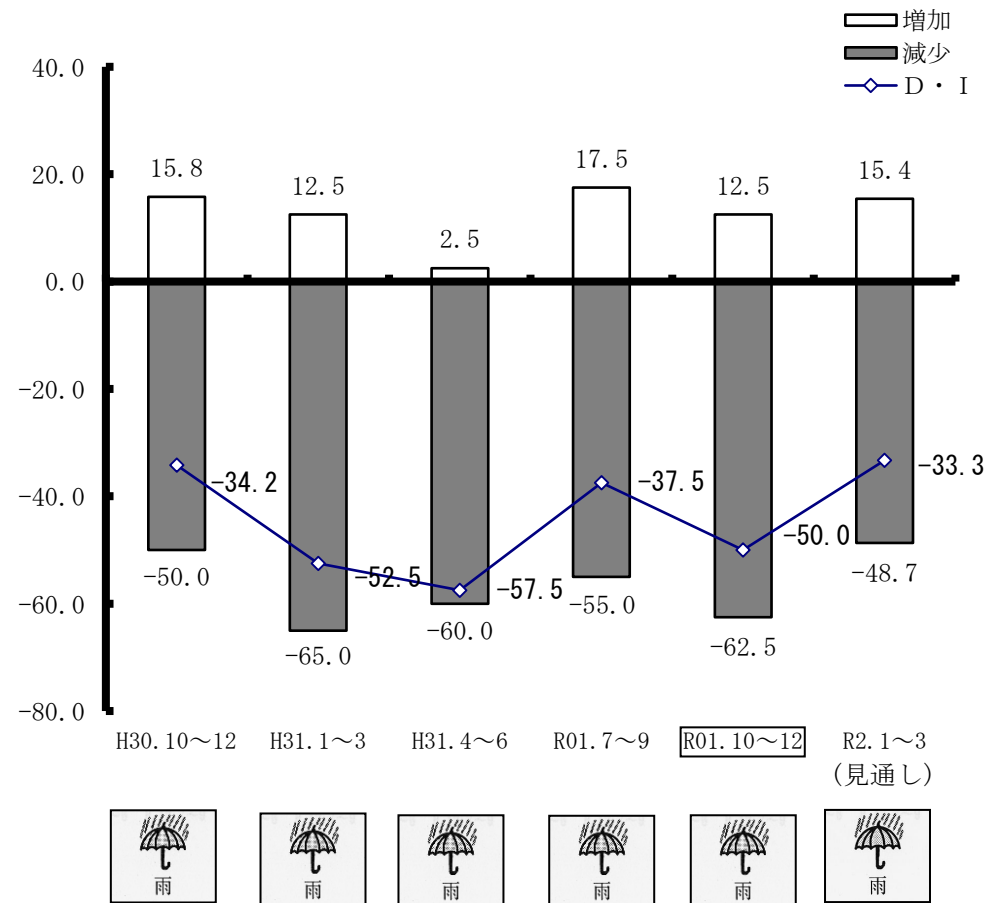


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が減少し、売上高減少企業の割合が増加となったことから、前期上昇に転じていた売上高D・Iは再び低下となり、12.5ポイント減少して、△50.0まで低下しています。

来期は、売上高増加を予想する企業割合が増加し、売上高減少を予想する企業割合が減少するため、売上高D・Iは上昇に転じる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

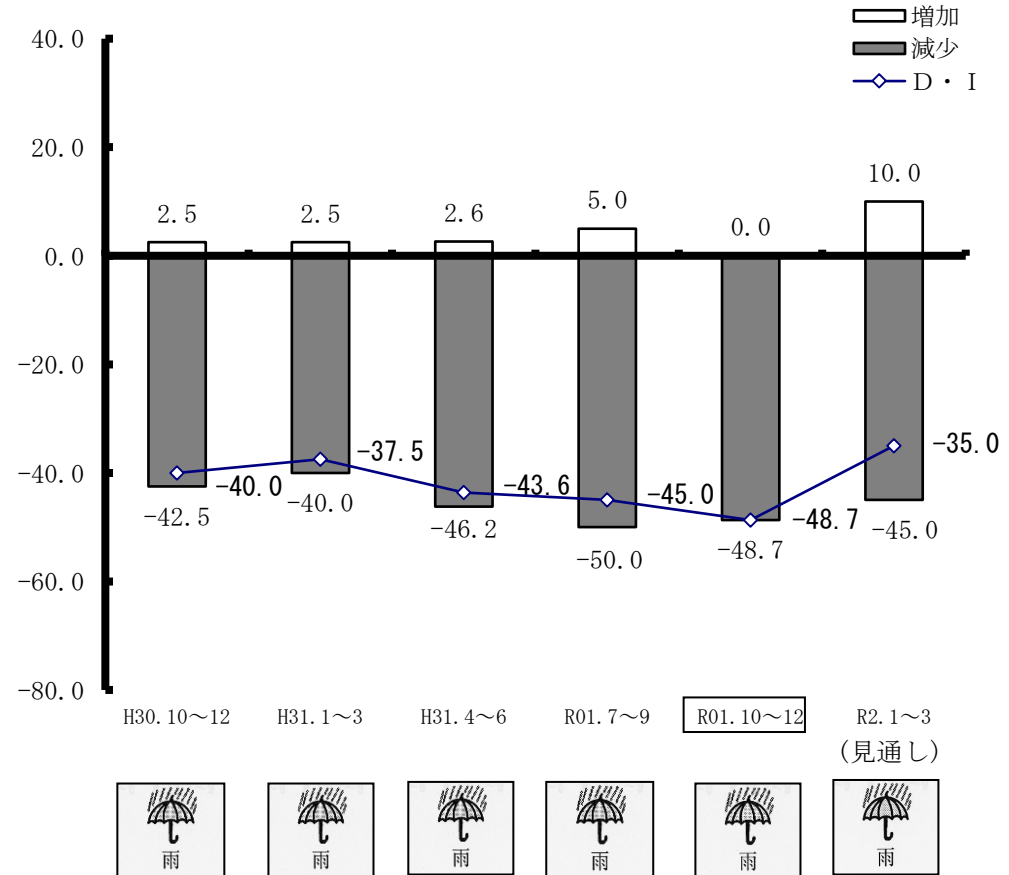


<来期見通し>



今期は、採算が悪化した企業の割合が1.3ポイント減少したものの、採算が好転した企業割合が、5.0ポイント減少してゼロとなったため、採算D・Iは低下し△48.7まで悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が増加し、採算の悪化を予想する企業割合が減少するため、マイナス幅が縮小し、採算D・Iは△35.0まで改善する見通しです。

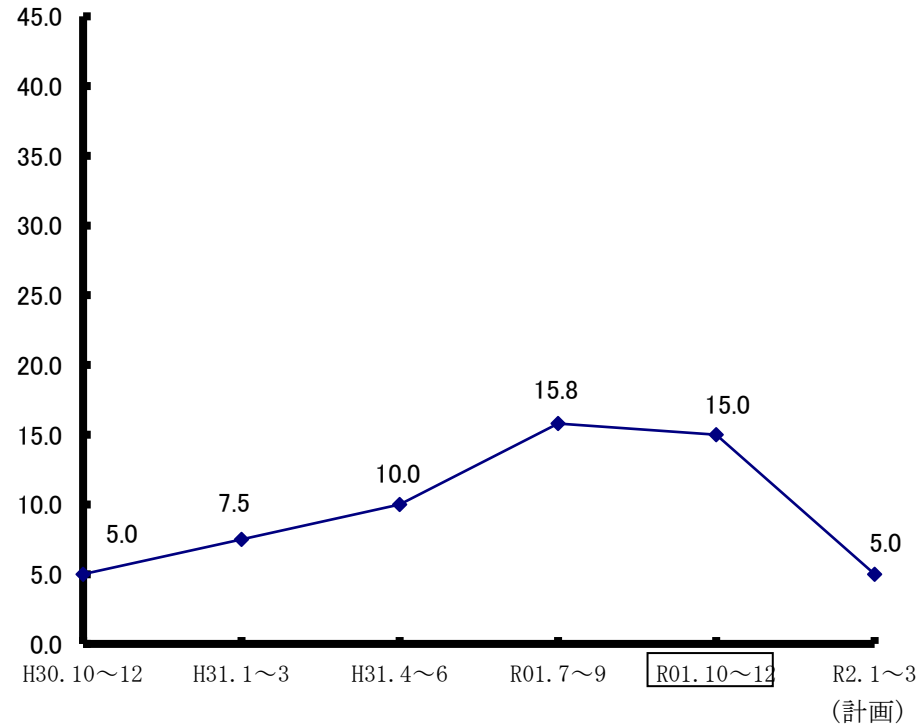


設 備 投 資

3期連続して増加していた設備投資を実施した企業数の割合は、今期、小幅ながら減少となり、15.0となりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合が大幅に減少し、5.0まで減少する見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



小売業の推移

経営上の問題点

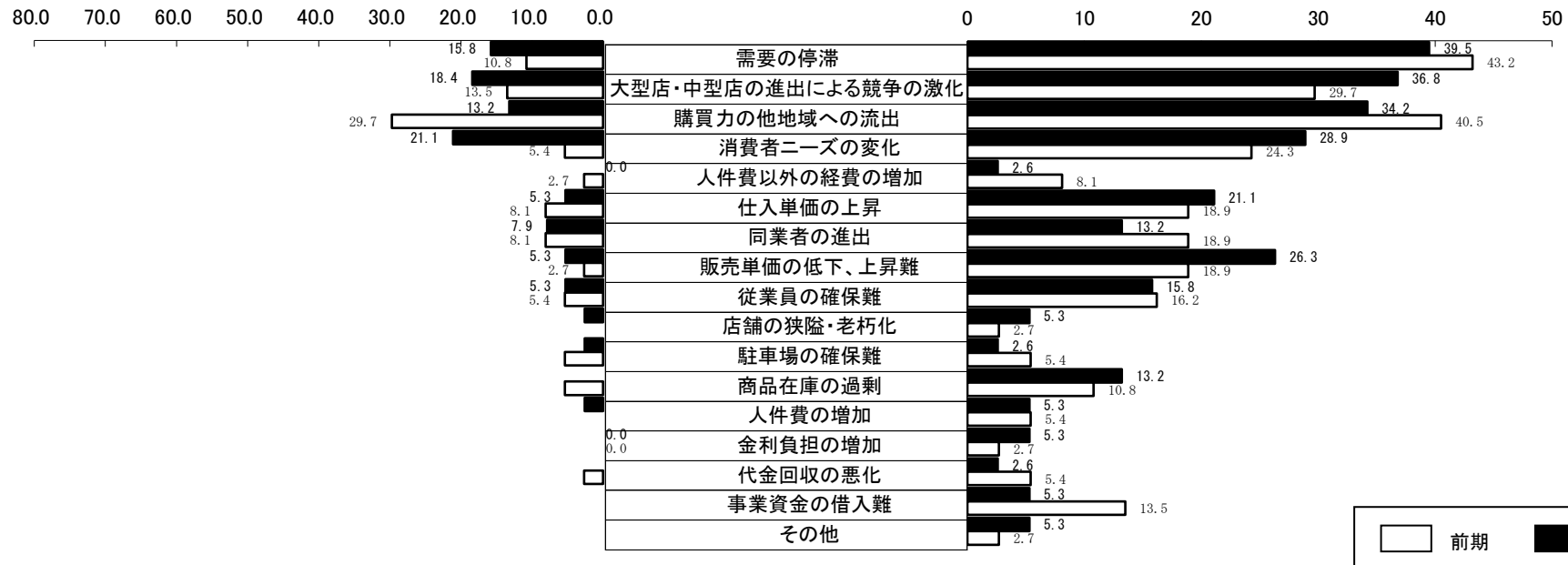
岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛:%)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

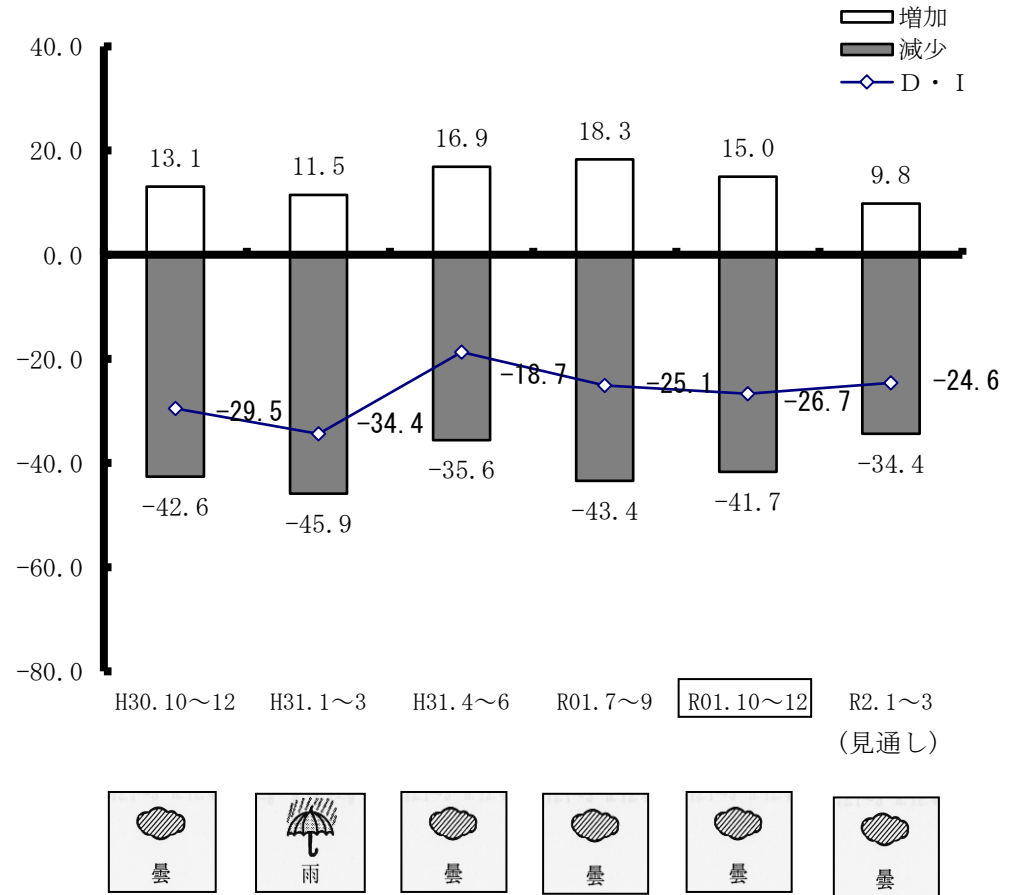


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が小幅に減少したものの、売上高減少企業の割合が1.7ポイント減少したため、売上高D・Iは1.6ポイント減少してマイナス幅を拡大し、△26.7まで低下しました。

来期は、売上高増加を予想する企業割合は減少するものの、売上高減少を予想する企業の割合も減少することから、売上高D・Iは引き続き上昇し、△24.6まで上昇する見通しです。



サービス業の推移

採算

<今 期>

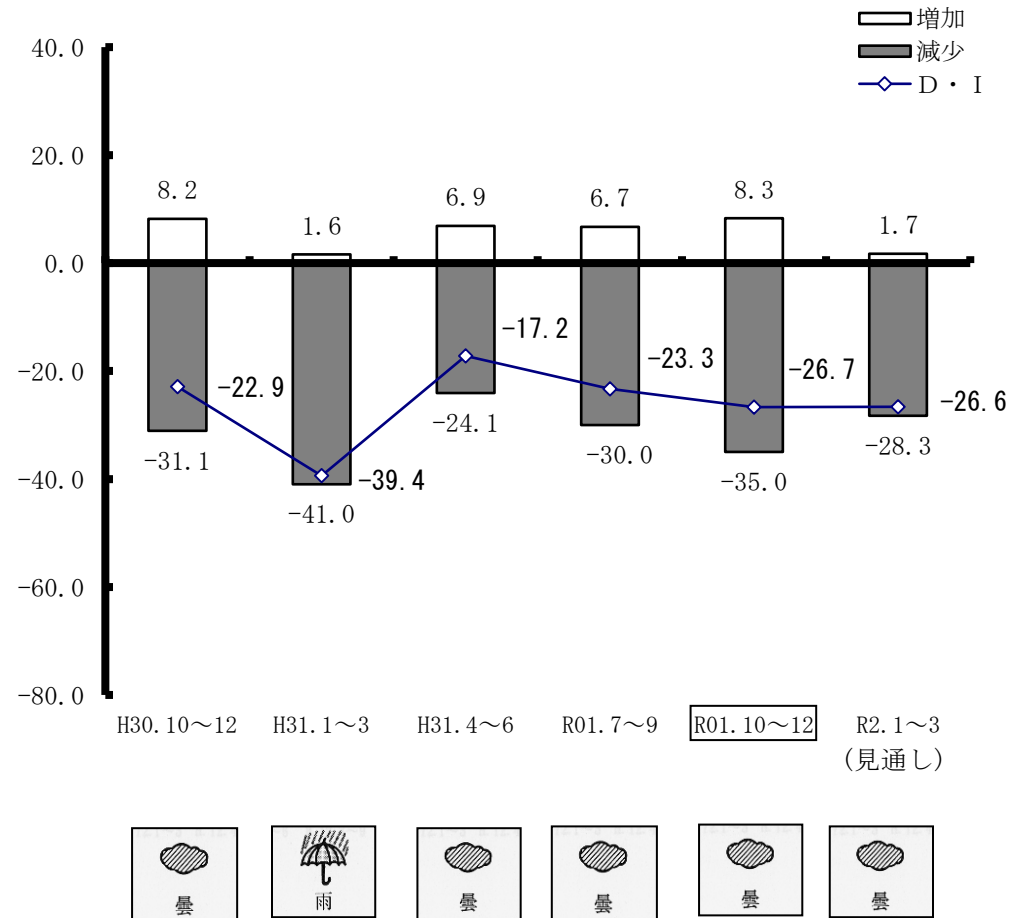


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が1.6ポイント増加したものの、採算が悪化した企業割合が5.0ポイント増加したことから、採算D・Iは3.4ポイントの減少となり、△26.7まで悪化し、2期連続の悪化となりました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が引き続き減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合も減少することから、採算D・Iはほぼ横ばいとなる見通しです。

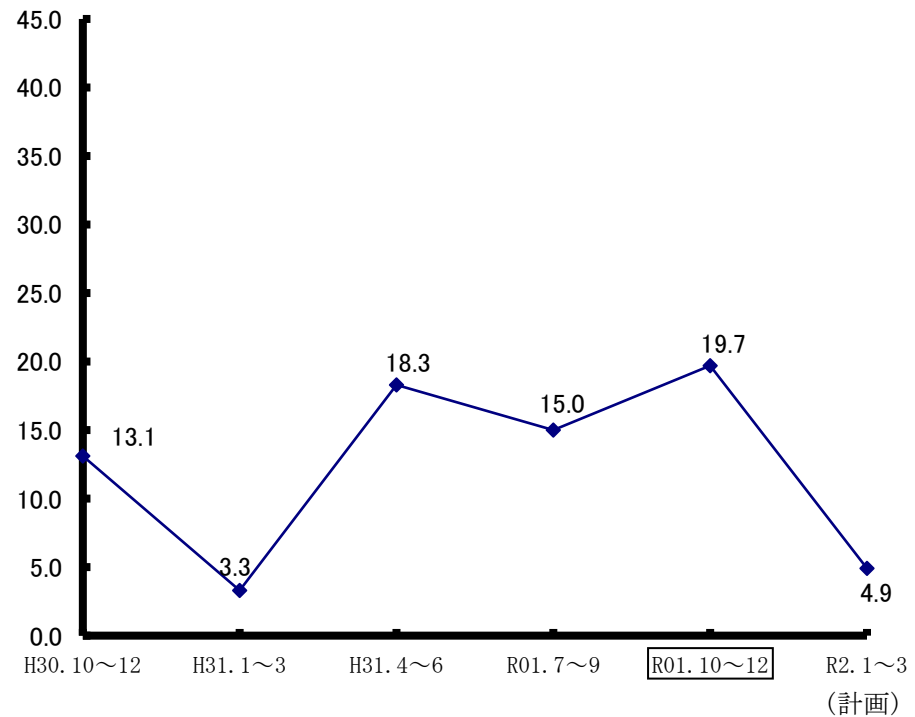


設備投資

前期減少に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は、今期は再び増加となり、19.7となりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に減少し4.9まで低下する見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



サービス業の推移

経営上の問題点

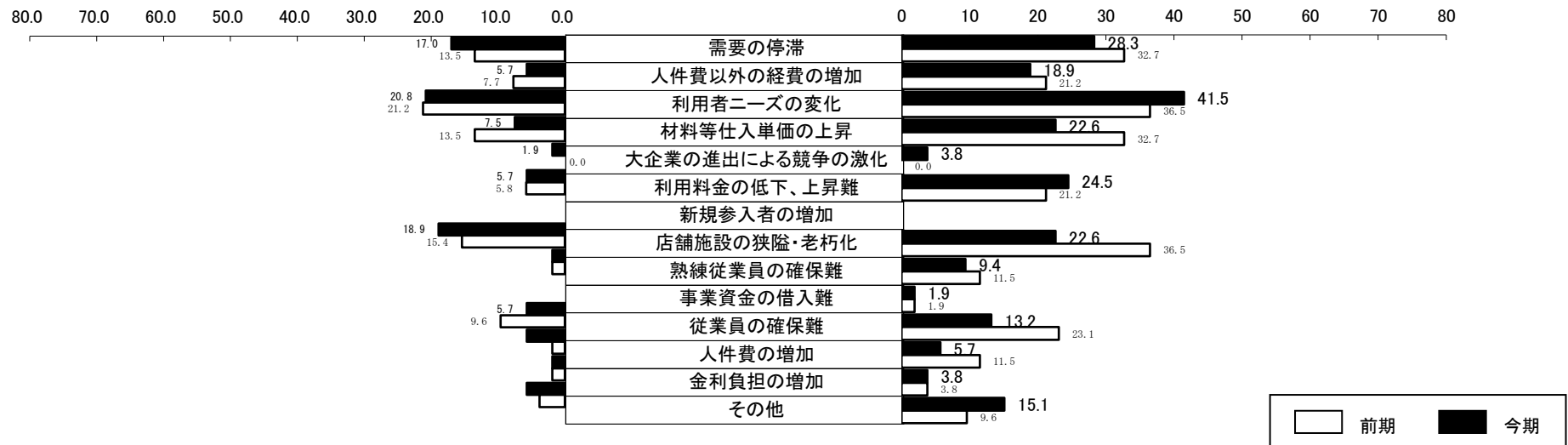
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

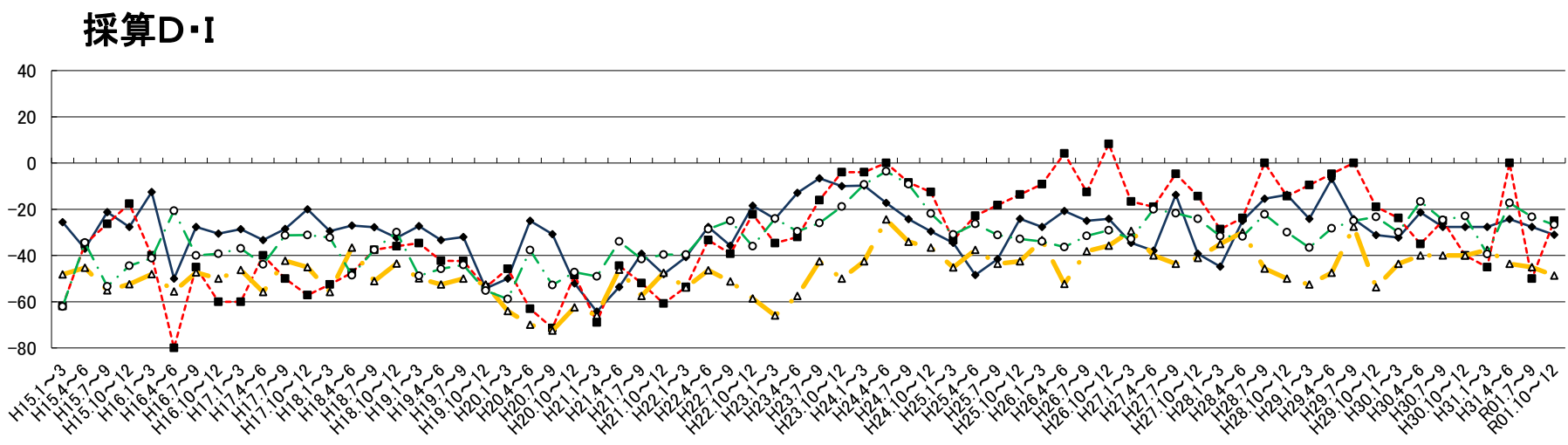
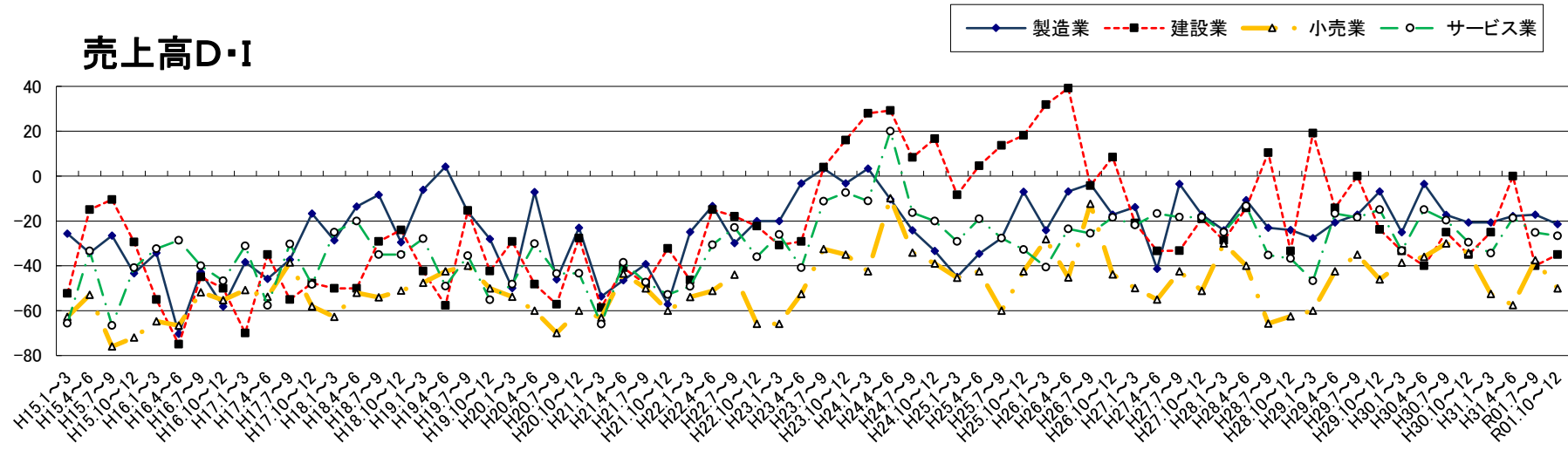
1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛: %)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 二戸市、雫石、岩手町、滝沢市、前沢
(商工会名) 金ヶ崎町、山田町、田野畑村、普代、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和元年10月～12月を対象とし、調査時点は令和元年11月15日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		29 (19.3)	29 (19.3)	100.0
建設業		20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業		40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サービス業		61 (40.7)	61 (40.7)	100.0
		150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。